救急科（必修・高槻赤十字病院）

1．到達目標

（1）　頻度の高い症候、救急疾患、外傷について初期対応を行うことができる

ア　適切な医療面接ができる

イ　身体診察を的確に行うことができる

ウ　頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行うことができる

エ　頻度の高い救急疾患、創処置、皮膚縫合を含む軽度の外傷・熱傷の初期治療ができる

オ　救急にかかわる基本的臨床手技・検査手技（静脈採血、動脈採血、注射、点滴、導尿、心電図記録・判読、超音波検査等）を実施することができる

カ　専門診療科と適宜連携し診療に当たることができる

キ　患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集することができる

ク　患者や家族と良好なコミュニケーションをとることができる

ケ　患者や家族に関わる院内外の保健・医療・福祉部門と連携し、適切な初期診療計画を立てることができる

（2）　生命や機能予後に係わる、緊急性の高い病態を有する患者の初期対応を行うことができる

ア　バイタルサインの把握ができる

イ　重症度と緊急度が判断できる

ウ　一次救命処置を確実に実施でき、かつ指導できる

エ　気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動を含む二次救命処置を実施できる

オ　診療チームの一員として、チームの各構成員と情報を共有し、連携を図ることができる

カ　緊急性の高い疾患を適切に診断できる

（3）　災害医療の基本を理解することができる

ア　災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる

2．方略（LS）

（1）　救急対応

ア　救急外来で指導医の下、初期診療を行う

イ　軽症から重症まであらゆる重症度、緊急度の診療に携わる

ウ　重症度・緊急度の高い患者では、診療チームの一員として行動する

エ　適時診療に対するフィードバックを指導医から得る

オ　副直として夜間・休日の救急外来診療を行う

カ　外傷初期診療に関して on-the-job、off-the-job（JATEC など）トレーニングを受ける

キ　心肺停止患者への初期対応に関して on-the-job、off-the-job（ICLS など）トレーニングを受ける

ク　患者や家族に関わる院内外の保健・医療・福祉部門と積極的にコミュニケーションをとり、連携する

（2）　災害医療対応：

ア　基幹災害拠点病院である当院での災害訓練・実習に参加する

イ　救急外来におけるトリアージを通じて、災害現場におけるトリアージの概念を理解する

（3）　カンファレンス、講義、実習：

ア　救急関連のカンファレンスに参加する

イ　救命救急センターにおける講義や実習に参加する

（4）　臨床手技：

以下の臨床手技について指導医の指導のもと実施する

ア　気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、気管挿管

イ　圧迫止血法、包帯法

ウ　採血法（静脈血、動脈血）

エ　注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保）

オ　穿刺法（腰椎）

カ　穿刺法（胸腔、腹腔）

キ　導尿法

ク　胃管の挿入・管理

ケ　局所麻酔法、創部消毒、ガーゼ交換、簡単な切開・排膿、皮膚縫合

コ　軽度の外傷・熱傷の処置

3．評価（Ev）

全科共通の評価表Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを用いて評価

4．週間スケジュール

	月	火	水	木	金
朝 (時間外)			副直		
午前	救急外来診療、 カンファレンス	救急外来診療、 カンファレンス	—	救急外来診療、 カンファレンス	救急外来診療、 カンファレンス
午後	救急外来診療	救急外来診療	—	救急外来診療	救急外来診療
夕 (時間外)		副直			